

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年4月18日

所属・職名	商経学部 教授	氏名	松本理一郎
研究課題	比喩的意味の拡張		
研究キーワード	意味的転移、faux amis、言語ユニバーサル、換喩	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度は、前年度の「気づく、無視する」に類似した意味についてである。「家、家庭」に関する語の異言語間の意味発達の違いについて調べた。ここでは、例として英語母語話者がスペイン語を学ぶ際、faux amis (false friend) になる familiar をあげる。スペイン語 familiar には、英語ではほぼ廃語となった familial 「家庭の」の意味があり、加えて、family member, relative を表す名詞用法があり、間違いやすい。同じくフランス語の familier にも「親しい人」という名詞用法がある。</p> <p>品詞が異なるというのは、主に統語的な違いであるが、これは、英語では廃れた familial 関連してもいえる。ロマンス系の言語が、「家の」という意味を、familial(e) (フランス語)、familiare (イタリア語)、familiar (スペイン語)、familiare (ポルトガル語) と派生語で表すに対して、英語では、名詞と同形の family を形容詞として複合語的に表すという差異がある。例えば、family business=negocio familiar (スペイン語)、azienda familiare (イタリア語)、entreprise familiale (フランス語)、impresa familiare (ポルトガル語) である。もちろん、これらの言語でも、分析的に前置詞+名詞で表せる: de famille (フランス語)、di famiglia (イタリア語)、de (la) familia (スペイン語)、da familia (ポルトガル語)</p> <p>英語も属するゲルマン系のドイツ語では、やはり、ラテン語由来の Familie は定着しているが、「家庭の」を表す意味は英語同様、複合語で表される: family business=Familienbetrieb スウェーデン語、ノルウェー語、デンマーク語の familie も同じである。</p> <p>意味変化については、形容詞 familiar を例にとると、かなり異なる意味が見られる。例えば、イタリア語の familiar の「内密な」という意味があげられる。</p> <p>英語学習者にとって、family と familiar の意味のつながりは、少しわかりにくい。しかし、これは、家族の者同士の状況の一部に、焦点が当てられたととらえれば得心する。英語 familiar とそれに対応するロマンス諸語の語義の発達も同じ観点から理解できる。最も重要な点は、家族の者同士で行われている一部に焦点が当てられ、意味の分化が生じている点である。例えば、その言葉遣いは、当然気安いものになる; linguaggio familiar 「(イタリア語)日常言語」、expression familiere 「(フランス語)口語表現」</p> <p>このような意味変化は、日本語にも見られる: 内輪の話の内(uchi)と家(uchi) 2.3.4. なし</p> <p style="text-align: right;">(本文は1ページ以内にまとめる)</p>			